

～ 大阪市立美術館 関連年表 ～

西暦	元号	周年	大阪市立美術館 関連事項	特別展	特別陳列・特集展示
1919	大正8		陸軍特別大演習行幸の際に三千円が大阪市に下賜される。		
1920	大正9		3月、市会において、御下賜金と財政上の余裕金で百万円を基金とした美術館の建設が議決される。 4月、美術館調査内規を制定し、調査委員に調査を委託する。		
1921	大正10		12月、男爵住友友純(といと)氏から大阪市に美術館建設地として天王寺茶臼山本邸敷地寄附の申し出がある。		
1922	大正11		1月、委員会の実地調査により敷地が決定する。		
1923	大正12		9月、関東大震災発生。影響による財政難のため建設事業が停止。		
1926	大正15 ／昭和元		建設事業の再開。 住友家からの敷地受領完了。		
1928	昭和3		1月、地鎮祭を挙行。 7月、基礎工事の完成。		
1929	昭和4		1月、上棟式を挙行。		
1930	昭和5		5月、鉄筋コンクリート工事が竣工するが、世界恐慌により工事中断。		
1933	昭和8		10月、再開。外装工事着手。		
1934	昭和9		9月、外装工事が竣工。第一室戸台風の被害により工事が遅延。		
1935	昭和10		5月、内装工事に着手。		

1936	昭和11	0	5月1日、落成式を挙行。9月11日、南館の内部工事を完了を受け、全館開館。	「落成記念 改組第1回帝国美術院展」(大阪市主催、5月2日～5月20日)、「開館記念 名宝展」(9月11日～9月30日)、「比叡山開創千五十年記念 佐教大師奉讃展」(11月1日～11月25日)、「支那名陶磁展」(11月1日～12月10日)	〈特陳〉「支那朝鮮陶磁」(4月25日～6月27日)
1937	昭和12	1		「紀州陶磁展」(2月1日～2月28日)、「高野山中院御坊 龍光院名宝展」(3月13日～3月28日)、「浮世絵版画展」(3月25日～4月10日)、「三聖代名作美術展」(朝日新聞社と主催、4月25日～5月27日)、「第1回大阪市学童図画展」(大阪市教育部と主催、9月21日～10月5日)「第2回名宝展」(10月10日～10月25日)、「国宝名画展」(10月29日～11月14日)、「第24回二科美術展」(大阪市主催、10月29日～11月14日)	〈特陳〉「甲冑武具」(7月1日～9月15日) 〈特陳〉「南洋陶器」(9月18日～10月25日) 〈特陳〉「日本漆器」(11月1日～11月30日) 〈特陳〉「置物・印籠・根付」(12月15日～1938年2月28日)
1938	昭和13	2		「肉筆浮世絵展」(3月12日～3月27日)、「靈鑑寺・加太淡島神社 人形展」(3月12日～3月27日)、「東洋美術大展覽会」(大阪毎日新聞社と主催、4月1日～4月20日)、「白隠律師遺墨展」(6月14日～5月31日)、「明治英雄名蹟展」(7月20日～7月31日)、「第2回大阪市学童図画展」(大阪市教育部と主催、9月17日～9月31日)「第3回名宝展」(10月9日～10月25日)、「第25回二科美術展」(大阪市主催、10月30日～11月14日)、「泰西名画展」(10月30日～11月30日)	〈特陳〉「紹興出土鏡」(1月15日～1月31日) 〈特陳〉「東洋陶磁」(4月1日～5月30日) ※6月12日まで延長 〈特陳〉「一方堂窯陶磁器」(7月1日～10月31日) 〈特陳〉「支那古明器泥像」(11月1日～12月18日)
1939	昭和14	3		「佐伯祐三遺作展」(3月11日～3月29日)、「支那美術大展覽会」(4月22日～5月14日)、「第3回大阪市学童図画展」(大阪市教育部と主催、9月16日～9月26日)、「附」第1回美術館員創作展(10月7日～10月15日)、「第4回名宝展」(10月11日～10月25日)、「第26回二科美術展」(大阪市主催、10月28日～11月14日)、「第2回泰西名画展」(10月28日～11月14日 ※11月30日まで延長)	〈特陳〉「陶磁」(2月5日～4月16日) 〈特陳〉「瀬戸陶磁」(10月11日～10月25日) 〈特陳〉「茶湯壺」(10月11日～11月25日)
1940	昭和15	4		「五重塔再建記念 四天王寺展」(3月1日～3月25日)、「二千六百年歴史展」(大阪毎日新聞社と主催、4月3日～5月12日)、「小川晴暢氏撮影 大同石叢写真展」(7月21日～8月20日)、「良寛並雲坪展」(9月14日～10月2日)、「第4回大阪市学童図画展」(大阪市教育部と主催、9月20日～9月29日)、「第5回名宝展」(10月5日～10月20日)、「第27回二科美術展」(大阪市主催、10月26日～11月10日)、「小出権重遺作展」(10月26日～11月30日)、「紀元二千六百年奉祝総合美術展」(翌年より「大阪市展」と改称、12月1日～12月15日)	〈特陳〉「ル・スタン・スキタイ・支那北方系動物文金具」(5月15日～6月30日) 〈特陳〉「永楽保全和金陶磁」(10月5日～11月10日) 〈特陳〉「カザール氏蒐集江戸蒔絵」(11月1日～12月15日)
1941	昭和16	5	太平洋戦争開戦により予算が縮小される。	「岡田米山人並半江展」(4月20日～5月4日)、「第1回大阪市展」(大阪市主催、5月18日～6月1日、関西綜合美術展の前身)、「第5回大阪市学童図画展」(大阪市教育部と主催、9月7日～9月16日)、「第6回名宝展」(10月5日～10月20日)、「第28回二科美術展」(大阪市主催、10月26日～11月9日)	〈特陳〉「第2回根付・置物」(1月7日～2月28日) 〈特陳〉「支那金工」(3月1日～4月30日) 〈特陳〉「希右衛門及伊万里陶磁」(10月5日～11月23日)

1942	昭和17	6	11月、日本陸軍高射砲師団司令部により南1階の展覧会室および1階小講堂、3階大講堂などを接収される。 12月、阿部房次郎氏蒐集の中国書画を子息・孝次郎氏より寄贈される。 1942年から43年にかけて、寄託されていた国指定の古美術品が所蔵者へ返還される。	「西山芳園並完璞展」(4月18日～5月23日)、「第2回大阪市展」(大阪市主催、5月9日～5月24日)、「第6回大阪市学電図画展」(大阪市教育部と主催、9月24日～10月4日)、「第7回名宝展」(10月10日～10月25日)、「第29回二科美術展」(大阪市主催、11月1日～11月15日)	〈特陳〉「坂本繁二郎還暦記念展」(11月1日～11月15日)
1943	昭和18	7	3月、大阪市下および近郊の文化施設を集めた大阪文化施設協会が大阪市により組織される。 11月、武藤金太氏より小西家文書(尾形光琳関係資料)の寄贈を受ける。 同月、古賀勝男氏より「豊臣秀吉像」(重要文化財)の寄贈を受ける。	「大東亜戦争美術展」(大阪市・朝日新聞社主催、1月15日～2月11日)、「第3回大阪市展」(大阪市主催、4月17日～4月29日)、「坂阿部房次郎氏蒐集支那名画展」(5月1日～5月20日※10月31日まで延長)、「藤島武二遺作展」(10月10日～10月24日※10月31日まで延長)、「第30回二科美術展」(大阪市主催、10月30日～11月14日)	〈特陳〉「瀬戸石皿」(4月15日～4月30日) 〈特陳〉「九谷陶磁」(10月10日～11月30日) 〈特陳〉「兜」(10月10日～11月10日) 〈特陳〉「正宗徳三郎還暦記念展」(10月30日～11月14日)
1944	昭和19	8	1月、住友友成氏より関西邦画展出品作の寄贈を受ける。「(関西邦画展)朝日新聞社主催、9月1日～9月14日)	「大東亜戦争美術展」(大阪市・朝日新聞社主催、1月22日～2月27日)、「陸軍美術展」(大阪市・朝日新聞社主催、4月14日～5月15日)、「第4回大阪市展」(大阪市主催、5月25日～6月11日)、「国枝金三遺作展」(11月1日～11月7日)	
1945	昭和20	9	9月、美術館から日本陸軍が撤退する。 10月1日、連合国軍により美術館を全館接収される。美術館事務室を天王寺公園市民博物館(市立天王寺図書館の前身)に一時移転。	この年展覧会の記録はなし。常設古美術展示は開催されていたようだが、特別展・特別陳列については不明。	
1946	昭和21	10	5月、休校中の旧精華国民学校に再移転。 1、2階に、市立大阪文化会館(1946年6月1日設立)、3階に美術館事務室が寄寓する。 7月、同所3階に美術研究所を開く。	「第1回新日本美術展」(於 阪急百貨店、大阪市・恩賜財団震災援護会主催、1月14日～2月20日)、「第31回院展」(於 市立大阪文化会館、大阪市・大阪美術協議会主催、10月10日～10月25日※11月3日まで延長)、「美術研究所生徒作品展」(於 市立大阪文化会館、11月8日～11月10日)、「第2回新日本美術展」(於 市立大阪文化会館、大阪市主催、11月10日～12月25日)	
1947	昭和22	11	3月、連合国軍最高司令官総司令部に接収解除の願書を提出する。 10月11日、美術館の接収が解除される。 11月1日、業務再開。	「創立1周年記念 第2回美術研究所生徒作品展」(於 大阪松坂屋、8月5日～8月15日)	

1948	昭和23	12	1月、美術館での展示活動を再開。 3月、美術研究所が美術館の南館地階に移転。	「再開記念 西洋美術名作展」(大阪市・朝日新聞社主催、1月10日～2月15日※2月29日まで延長)、「再開第1回 大阪市展」(大阪市主催、3月20日～4月4日)、「北斎100年祭記念 肉筆浮世絵展」(朝日新聞社・大阪府・市貿易振興博覧会事務局と主催、4月10日～5月10日)、「第3回美術研究所生徒作品展」(7月31日～8月22日)、「聖徳太子美術展」(四天王寺・毎日新聞社と主催、9月19日～10月10日※10月17日まで延長)、「きものの歴史展」(10月1日～10月10日※10月17日まで延長)、「郷土文化展」(大阪府・大阪市主催、10月24日～11月15日)	
1949	昭和24	13	5月、美術館友の会発足。	「第1回関西西洋画展並日本近代油絵展」(2月1日～2月20日)、「再開第2回大阪市展」(大阪市主催、3月30日～4月24日)、「キリンヅクン美術展」(4月23日～5月15日)、「第2回西洋美術名作展」(朝日新聞社と主催、9月17日～10月16日)、「源氏物語絵巻展」(10月18日～10月25日)、「茶道美術展」(友の会と主催、10月25日～11月3日)、「第4回大阪市美術研究所展」(10月29日～11月8日)、「第1回大阪市立小中学校図工展」(大阪市教育局主催、大阪市学童図画展の後身、11月13日～11月22日)、「第5回日本美術展大阪陳列」(大阪市主催、12月1日～12月25日)	
1950	昭和25	14	5月、文化財保護法の制定。 6月、広田松繁氏より「青磁象嵌葡萄童子文瓢形米注」の寄贈を受ける。	「10日間のルーツル 西洋美術史展」(大阪市教育委員会・造形美術協会主催、2月16日～2月27日)、「大阪市立小中学校図工展」(於 三越、2月11日～2月23日)、「第1回関西総合美術展」(大阪市主催、3月25日～4月16日、関西展の前身)、「関西五作家遺作名品展」(新大阪新聞社と主催、4月22日～5月14日)、「世界の彫刻展」(4月22日～5月14日)、「友の会美術祭名宝展」(友の会と主催、6月18日)、「イタリヤ名画複製展」(朝日新聞文化事業団と主催、8月3日～8月17日)、「古代世界史展」(大阪市立大学法文学部と主催、8月11日～9月3日)、「古代の生活展」(朝日新聞文化事業団と主催、9月9日～10月25日)、「第4回美術団体連合展」(毎日新聞社と主催、10月14日～11月5日)、「現代フランス創作版画展」(新大阪新聞社と主催、11月11日～12月3日)、「第35回二科展」(二科会と主催、11月21日～12月25日)	
1951	昭和26	15	12月、博物館法制定。	「新春名宝展」(友の会と主催、1月21日～1月23日)、「第2回大阪市立小中学校図工展」(1月20日～1月26日)、「第5回大阪市立美術研究所展」(1月20日～1月26日)、「第2回関西総合美術展」(2月15日～3月11日)、「アメリカ・フランス現代版画展」(4月8日～5月6日)、「[附] 関西総合美術展東京開催」(於 上野松坂屋、毎日新聞東京本社と主催、4月26日～5月9日)、「フレンチ・ベーズ展」(東京国立博物館・読売新聞社と主催、5月24日～6月17日)、「狭瀬館旧蔵中国名画展」(7月1日～7月31日)、「ピカソ展」(読売新聞社・大阪新聞社・産業経済新聞社と主催、9月12日～10月7日※10月14日まで延長)、「開館15周年記念 陶器の文化展」(朝日新聞文化事業団と主催、10月20日～11月30日)、「開館15周年記念 ポンペイ遺跡展」(大阪市立大学法文学部と主催、10月20日～11月30日)、「開館15周年記念 信太山黄金塚古墳遺物展」(大阪府教育委員会と主催、10月20日～11月30日)	〈特陳〉「明代染付・赤絵」(5月18日～6月17日)
1952	昭和27	16	3月、「婦人こども大博覧会」(会場、天王寺公園、大阪城公園)開催にともない、こども館として展示を行う。 7月、博物館法をうけ大阪府教育委員会に博物館として登録。	「第6回大阪市立美術研究所展」(2月23日～2月28日)、「第3回大阪市立小中学校図工展」(3月1日～3月7日)、「世界の入形展」(大阪市・大阪新聞社・産業経済新聞社主催、3月20日～5月31日)、「志野・織部・黄瀬戸・桃山屏風名品展」(友の会・華道池坊大阪中央協会本部と主催、6月28日～7月20日)、「華道池坊花展」(友の会・華道池坊大阪中央協会本部と主催、8月22日～8月31日)、「印度美術展」(イント大使館主催、8月22日～8月31日)、「原始美術展」(10月5日～11月9日※11月20日まで延長)、「フランス展」(東京国立博物館・読売新聞社と主催、11月1日～11月20日)	

1953	昭和28	17	文部省の助成を受け、金銅製美術品のベーター・ロブによる研究に着手。	「第4回大阪市立小中学校図工展」(2月17日～2月20日)、「第7回大阪市立美術研究所展」(3月10日～3月16日)、「阿部房次郎氏寄贈 中国名画展」(3月8日～3月25日)、「第3回関西総合美術展」(大阪読売新聞社と主催、3月28日～4月19日)、「百五十年遠忌記念 慈雲尊者遺墨展」(慈雲尊者百五十年遠忌奉賛会と主催、4月25日～5月17日)、「東洋石仏展」(5月23日～6月21日)、「古代エーラシア青銅美術展」(5月23日～6月21日)、「大阪新刀名作展」(大阪市・財)日本美術刀剣保存協会大阪支部主催、10月1日～11月8日)、「オランダ版画展」(10月6日～10月25日)、「ルオー展」(東京国立博物館・読売新聞社と主催、11月21日～12月10日)	
1954	昭和29	18		「第8回大阪市立美術研究所展」(2月23日～2月28日)、「第5回大阪市立小中学校図工展」(大阪市立小中学校教育研究会図工部と主催)、「第4回関西総合美術展」(読売新聞社と主催、3月31日～4月25日)、「国吉康雄遺作展」(毎日新聞社と主催、5月11日～5月23日)、「ゴッホ・デュープレ展」(朝日新聞社と主催、5月15日～5月31日※6月6日まで延長)、「大阪古代文化展」(産業経済新聞社・大阪新聞社と主催、5月15日～6月30日)、「[附]阿部コレクショ」中国名画展東京開催(朝日新聞社主催、於 東京三越、8月10日～8月15日)、「ゴッホ複製展」(10月11日～10月10日)、「明器泥像展」(10月11日～11月14日)、「第10回日本美術展大阪陳列」(大阪市・大阪市教育委員会主催、12月11日～1955年1月11日)	(特陳)「イタリヤとの交換日本考古品」(3月21日～3月24日)
1955	昭和30	19	2月、イタリヤ国立ピコリーニ先史民族博物館と第1回交換寄贈を行い、エトルリア・ローマをはじめとした、土器・陶磁器類を受贈する。	「第9回大阪市立美術研究所展」(2月25日～3月2日)、「第7回大阪市立小中学校図工展」(2月25日～3月2日)、「第5回関西総合美術展」(読売新聞社と主催、3月26日～4月24日)、「日伊交換 エトルスク・ローマの器展」(4月29日～5月15日)、「九州古陶名品展―玉屋コレクション」(5月20日～6月29日)、「[はにわの顔展]」(10月11日～10月30日)、「メキシコ美術展」(メキシコ芸術院・読売新聞社と主催、11月10日～12月20日)、「第8回大阪市立小中学校図工展」(12月6日～12月12日)、「第10回大阪市立美術研究所展」(12月6日～12月12日)、「[附]「エトルスク・ローマ」明清名画展」(於 愛媛文華館、10月20日～10月30日)	
1956	昭和31	20		「第11回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、1月3日～2月3日)、「第6回関西総合美術展」(読売新聞社と主催、4月1日～4月22日)、「松方コレクション 歌麿展」(東京国立博物館と主催、5月13日～6月3日)、「中東美術調査展」(京都大学カラム・ビズネス探検隊人類学班と主催、9月8日～9月30日)、「ギリシア・ローマの美術―彫刻と工芸―」(9月8日～10月23日)、「田崎香逸氏収集拓本展」(10月1日～10月21日)、「創立20周年記念 館蔵品展」(10月28日～11月23日)、「長大千臨模 敦煌石窟壁画展」(11月25日～12月12日)、「第9回大阪市立小中学校図工展」(12月6日～12月12日)、「第11回大阪市立美術研究所展」(12月6日～12月12日)、「[附]「エトルスク・ローマの器展」」(於 神戸市立南雲美術館、2月1日～2月25日)	(特陳)「イタリヤとの第2回交換日本民族資料」(4月29日～5月6日)
1957	昭和32	21	4月、職制改革により庶務課(現総務課)・学芸課の二課制になる。	「第12回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、1月12日～2月3日)、「第7回関西総合美術展」(大阪読売新聞社と主催、3月30日～4月22日)、「大雅展」(4月28日～5月19日)、「100年祭記念 広重名作展」(毎日新聞社と主催、9月15日～9月29日※10月3日まで延長)、「日本絵巻物展」(大阪読売新聞社と主催、10月13日～11月10日)、「第10回大阪市立小中学校図工展」(10月23日～10月28日)、「第12回大阪市立美術研究所展」(10月23日～10月28日)	
1958	昭和33	22	10月、大阪市立美術館PR誌「美をつくり創刊」。美術館の部分改装が始まる。(1961年度まで)	「第8回関西総合美術展」(大阪読売新聞社と主催、1月25日～2月16日)、「第13回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、4月5日～4月30日)、「水墨画展」(毎日新聞社と主催、5月3日～5月25日)、「没後30年記念 佐伯祐三名作展」(9月13日～10月5日)、「神文・弥生の時代―私たちの祖先の生活展―」(10月1日～12月14日)、「[はにわ版画展]」(大阪読売新聞社と主催、10月8日～10月26日)、「第1回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、12月18日～1959年1月21日※民営に改組した(社)日本美術展覧会の第1回展)	

1959	昭和34	23	1月、イタリヤ国立ピコリーニ先史民族博物館と第2回交換寄贈を行う。 5月、「大阪文化財調査団」(大阪読売新聞社と提携)を組織し、大阪府下の文化財・遺跡調査を行う。	「市制70周年記念 第9回関西展」(大阪読売新聞社と主催、4月5日～4月29日※この日より関西総合美術展の略称を展覧会名とする)、「第2回イタリヤ交換美術 古代ローマの彫刻と葦」(5月3日～5月31日)、「阿部コレクション 中国名画展」(5月3日～5月31日)、「大阪の新発見文化財展」(大阪読売新聞社と主催、10月1日～11月3日)、「車塚古墳発掘展」(大阪読売新聞社と主催、10月1日～11月3日)、「円山応挙展」(11月7日～12月6日)	
1960	昭和35	24	12月、大阪市立博物館開館(大阪城内、2001年閉館)、美術館から学芸員2名が転出。	「第2回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月21日～3月25日)、「第10回関西展」(大阪読売新聞社と主催、4月6日～4月29日)、「生誕200年記念 北斎展」(5月3日～5月31日)、「平城・難波・平安 埋もれた古都展」(10月1日～10月31日)、「世界の土の芸術展」(10月15日～11月30日)、「建築・都市計画・芸術 ル・コルビュゼ 大阪展」(ル・コルビュゼ大阪展実行委員会主催、11月6日～12月4日※12月18日まで延長)、「附」古代ローマ美術展」(於 島根県立博物館、5月12日～5月31日)	
1961	昭和36	25	5月、美術館改装工事の完了。	「第2回東京国際版画ビエンナーレ展」(国立近代美術館・読売新聞社と主催、1月25日～1月22日)、「第3回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催)、「美術館創設25周年記念 栖鳳・溪仙・姜璽・華岳名作展」(5月13日～6月4日※6月7日まで延期)、「椎朱・鎌倉彫・桃来塗 一朱漆の美」(9月10日～10月3日)、「西洋近代彫刻家作品展」(9月23日～10月15日)、「東洋古典彫刻展」(11月3日～12月10日)、「近代日本の洋画展 国立近代美術館蔵」(国立近代美術館と主催、11月3日～12月3日※12月17日まで延長)	
1962	昭和37	26	5月、コナエ綴織・石彫を一括購入。	「第4回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月24日～3月31日)、「第11回関西展」(大阪読売新聞社と主催、4月7日～4月29日)、「浮世絵名作展」(5月3日～5月27日)、「新収 古代エジプト染織・彫刻展 ーコナエ綴織と石彫ー」(6月1日～7月8日)、「富田溪仙未発表作品展」(6月1日～7月8日)、「弘巖和尚遺墨展」(9月8日～10月7日)、「中国 染付名陶展」(9月15日～10月17日)、「明治美術名作展」(朝日新聞社と主催、10月18日～11月18日)	
1963	昭和38	27		「第3回東京国際版画ビエンナーレ展」(国立近代美術館・読売新聞社と主催、1月6日～2月17日)、「ミロ版画展」(読売新聞社と主催、1月6日～2月17日)、「第5回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月24日～3月31日)、「第12回関西展」(大阪読売新聞社と主催、4月7日～4月29)、「ヘンス・エルニー展」(5月1日～5月28日)、「ペイヨール展」(読売新聞社と主催、9月24日～10月20日)、「ターナー展」(朝日新聞社・フチサト美術館・国際文化振興会と主催、11月1日～12月1日)、「フランチル現代版画展」(朝日新聞社と主催、11月1日～12月1日)	(特陳)「中国絵画名作展 ー阿部エロクシヨ」(5月30日～7月10日) (特陳)「エジプトコナエ期石彫・綴織」(5月30日～7月10日)
1964	昭和39	28		「第6回日展」(大阪市・大阪市教育委員会が主催、2月23日～3月31日)、「第13回関西総合美術展」(大阪読売新聞社と主催、4月15日～4月29日)、「西洋創作版画展 レンブラントから現代まで」(5月3日～5月31日)、「名作水墨展」(朝日新聞社と主催、10月1日～11月3日)、「近代西洋名作展」(大阪読売新聞社と主催、11月8日～12月6日)	

1965	昭和40	29	3月、武居巧氏より米幣「草書帖」(重要文化財)の寄贈を受ける。	「第4回東京国際版画ビエンナーレ展」(国立近代美術館・読売新聞社と主催、1月6日～2月14日)、「第7回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月23日～3月31日)、「第14回関西展」(大阪読売新聞社と主催、4月16日～4月29日)、「応挙から植鳳へ」(5月1日～5月31日)、「阿部コレクシヨン 中国名画展」(9月28日～10月24日)、「大原コレクシヨン 近代日本の洋画名作展」(大原美術館・日本経済新聞社と主催、11月6日～12月5日)、「ルオー遺作展」(文部省・国立西洋美術館・読売新聞社と主催、12月12日～1966年1月23日)	〈特陳〉「日本の屏風名作展」(6月15日～7月31日) 〈特陳〉「エトルリアの意・エジプトエノトの美術」(8月1日～9月20日)
1966	昭和41	30		「生誕130年記念 鉄斎名品展」(清荒神清澄寺・大阪読売新聞社と主催、1月15日～2月15日)、「第9回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月26日～3月31日)、「第15回関西総合美術展」(大阪読売新聞社と主催、4月17日～4月29日)、「小西家全資料初公開記念 光琳名作展」(日本経済新聞社と主催、5月3日～6月5日)、「明清の書名品展」(日本書学院と主催、7月17日～7月31日)、「開館30周年記念 中国美術5000年展」(朝日新聞社と主催、10月15日～11月23日)、「附」「エトルリアの意と彫刻展」(於 倉敷考古館、10月9日～11月27日)	〈特陳〉「松瀬青々展」(徳島会と主催、8月5日～8月31日)
1967	昭和42	31		「トリスノイ展」(大阪市・(財)日本近代文学館・朝日新聞社主催、1月4日～1月29日)、「第9回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月25日～3月31日)、「ルネサンス ミニアチュール展」(イタリヤ大使館・日本経済新聞社と主催、4月5日～5月5日)、「初期京健展」(徳川美術館・根津美術館と主催、5月3日～5月31日)、「ボッヘイ古代美術展」(国立西洋美術館・読売新聞社・イタリヤ中亜細東文化研究所(イズメカ)と主催、6月10日～7月16日)、「第16回関西展」(大阪読売新聞社と主催、7月23日～8月3日)、「生誕100年記念 藤島武二展」(朝日新聞社と主催、10月8日～11月5日)	
1968	昭和43	32		「第10回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月25日～3月31日)、「根津美術館名宝展」(根津美術館・朝日新聞社と主催、4月13日～5月12日)、「附」「阿部コレクション 中国名画展」(於 根津美術館・根津美術館・朝日新聞社と主催、4月10日～5月16日)、「国宝源氏物語絵巻展」(徳川美術館・五島美術館・日本経済新聞社と主催、5月18日～5月30日)、「第17回関西展」(大阪読売新聞社と主催、7月21日～7月31日)、「乾山名品展」(徳川美術館・根津美術館・毎日新聞社と主催、9月7日～10月6日)、「明治・大正・昭和 大阪の巨匠展」(大阪読売新聞社と主催、10月10日～11月10日)、「附」「古代ローマの彫刻と壺」(於 福山城博物館、8月1日～8月31日)	
1969	昭和44	33		「第11回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月23日～3月31日)、「八大人・石濤と揚州八怪の名画展」(4月26日～5月25日)、「第18回関西展」(大阪読売新聞社と主催、7月20日～7月30日)、「フナマル・クレー展」(大阪市・大阪市教育委員会・日本美術館企画協議会主催、9月27日～10月19日)、「田万コレクシヨン 東洋美術展」(10月25日～11月16日)、「鍋井克之遺作展」(朝日新聞社と主催、11月22日～12月14日)	〈特陳〉「鉄斎の名作」(清荒神清澄寺と主催、1月6日～1月29日) 〈特陳〉「日本の近代洋画」(1月6日～2月16日) 〈特陳〉「中世の仏画」(2月1日～2月16日) 〈特陳〉「地中海の美術」(6月1日～7月13日) 〈特陳〉「江戸時代の蒔絵」(8月5日～8月31日)

1970	昭和45	34		「改組第1回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月21日～3月31日)、「大阪・サンフランシスコ姉妹都市間交換展 フランデージ・コレクション特別展」(サンフランシスコ市・大阪市・読売新聞社主催、4月5日～5月17日)、「附」OSAKA EXCHANGE EXHIBITION, Paintings from the Abe Collection and other Masterpieces of Chinese Art (デ・ヤング美術館、シアトル美術館、バサライナ美術館、ホノルル美術館を巡回、サンフランシスコ市・大阪市主催、9月15日～10月25日)、「第19回関西展」(大阪読売新聞社と主催、7月20日～7月30日)、「ペン・シヤーン展」(8月2日～8月31日)、「酒井コレクション 浮世絵名作展—写楽新資料初公開—」(10月24日～11月22日)	(特陳)「鉄斎の名作」(清荒神清澄寺と主催、1月6日～2月8日) (特陳)「阿部コレクションを中心とした中国の名画」(4月5日～5月17日) (特陳)「初期屏風の名品」(5月23日～6月21日) (特陳)「ルネサンス期 ベルギーのタペストリー展」(ベルギー国総領事館と主催、10月3日～10月20日)
1971	昭和46	35		「第2回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月21日～3月31日)、「第20回関西展」(読売新聞大阪本社と主催、7月20日～7月30日)、「美濃古陶展—黄瀬戸・志野・織部を中心として—」(徳川美術館・根津美術館・朝日新聞社と主催、9月11日～10月8日)、「ホルター美術館名作展—ヨーロッパ絵画の流れ—」(ホルター美術館・日本美術館企画協議会・中日新聞社・大阪市教育委員会主催、10月10日～11月14日)	(特陳)「鉄斎の名作」(清荒神清澄寺と主催、1月6日～2月11日) (特陳)「日米交換展終了記念 阿部コレクションと中国の名宝」(5月9日～5月31日)(特陳)「近代日本の洋画」(6月6日～7月11日)
1972	昭和47	36	老朽化にともなう部分改修を行う。(1976年度まで順次実施)	「第3回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月20日～3月31日)、「近代中国の画家」(4月29日～5月28日)、「第21回全関西美術展」(関西展を改称、読売新聞大阪本社と主催、7月22日～7月30日)、「美術に見る中国と日本展」(朝日新聞社と主催、10月7日～11月12日)	(特陳)「国宝・重要文化財50選」(1月6日～2月13日) (特陳)「印籠と根付」(6月10日～7月9日)
1973	昭和48	37		「世界の染織展」(1月6日～2月11日)、「第4回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月24日～3月31日)、「近世の詩絵—文房具—展」(4月28日～5月27日)、「第22回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月21日～7月30日)、「近世の瀬戸展」(徳川美術館・根津美術館・朝日新聞社と主催、9月1日～9月30日)、「橋本國雪名作展」(朝日新聞社と主催、10月6日～11月4日)、「附」地中海の古代美術展」(於 和歌山県立近代美術館、3月3日～3月25日)	
1974	昭和49	38	3月、岡村馨二郎氏(雅号・萌古斎)より中国金石拓本のコレクションを一括購入。 6月、中島小一郎氏より作品寄贈を受ける。 (葛飾北斎「潮干狩図」ほか3点)	「第5回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月21日～3月31日)、「中国美術展シリーズⅠ 漢代の美術展」(4月27日～5月26日)、「第23回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、4月27日～5月26日)、「近代日本風土洋画名作展」(朝日新聞社と主催、11月1日～11月24日)	(特陳)「ローマ・エトラスカの壺と彫刻」(1月6日～2月11日)
1975	昭和50	39	3月、U・A・ザール氏の漆工コレクションの一部(9点)が遺族より譲渡される。(1976年度の2度にかかけ)	「第6回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月23日～3月30日)、「酒井コレクションによる 広重東海道風景版画展」(5月3日～5月25日)、「第24回全関西美術展」(読売新聞社大阪本社と主催、7月20日～7月30日)、「大阪・レニエラート児童画・写真展」(大阪市主催、8月20日～8月31日)、「中国美術展シリーズⅡ 六朝の美術」(10月10日～11月9日)	(特陳)「中国絵画展—本館所蔵・中国絵画全作品出版—」(4月5日～4月29日) (特陳)「田万コレクション名品展」(5月3日～5月25日)

1976	昭和51	40	2月、1階小講堂を改修し、美術ホールを新設。	「第7回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月21日～3月25日)、「初期屏風絵展」(4月29日～5月30日)、「第25回全関西美術展」(読売新聞社大阪本社と主催、7月18日～7月30日)、「中国美術展シリーズⅢ 隋唐の美術」(朝日新聞社と主催、10月10日～11月14日)	〈特陳〉「明清の書展」(日本書芸院創立30周年記念。本館は後援。4月8日～4月23日)
1977	昭和52	41	会場空調化工事を基本とした全館の美観を整える大改修が始まる。(1979年度まで)3月、山口謙四郎氏の遺族より中国彫刻・工芸コレクションが大阪市に譲渡される。(1978年度まで)	「第8回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月24日～3月27日)、「氏家コレクションを中心とした肉筆浮世絵名品展」(4月15日～5月8日)、「素朴な画家たち」(朝日新聞社と主催、9月3日～10月2日)、「河内あすか古寺名宝展」(河内飛鳥古寺顕彰会、朝日新聞社と主催、10月9日～11月6日)、「大阪市立美術研究所30年記念展」(11月12日～11月30日)	〈特陳〉「開館40周年 館蔵名品展」(1月5日～2月13日)
1978	昭和53	42	6月、小西家伝来・尾形光琳関係資料が一括して重要文化財の指定を受ける。	「第9回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月23日～3月26日)、「海の正倉院 宗像沖ノ島の遺宝展」(宗像大社・毎日新聞社と主催、4月22日～5月28日)、「第26回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月20日～7月30日)、「中国美術展シリーズⅣ 宋元の美術」(朝日新聞社と主催、10月15日～11月12日)	〈特陳〉「世界の古代土器」(8月12日～9月24日) 〈特陳〉「重要文化財新指定記念 光琳資料全公開」(8月27日～9月24日)
1979	昭和54	43	9月、特別展とともに改装記念式典を挙行。	「第10回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月25日～3月25日)、「陝西 甘肅 新疆出土 漢—唐 中華人民共和国シルクロード文物展」(大阪商工会議所・日本中国文化交流協会・読売新聞社と主催、5月19日～7月8日)、「改装記念 安宅コレクション東洋陶磁展」(日本経済新聞社と主催、9月15日～11月4日)、「改装記念 山口コレクション中国石仏展」(9月15日～11月4日)、「サントリー美術館名品展」(サントリー美術館と主催、11月17日～12月23日)	
1980	昭和55	44	5月、田万清臣・明子夫妻蒐集の日本・東洋美術コレクションが夫人より寄贈される。(1982年度追加寄贈)	「EAST & WEST 浮世絵と印象派の画家たち 展 東と西を結ぶ虹のかけ橋」((財)2001年日本委員会・サントリー新聞社・関西テレビ放送と主催、1月22日～2月10日)、「第11回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月23日～3月20日)、「中華人民共和国 西安古代金石拓本と壁画展」(奈良市・日本中国文化交流協会・毎日新聞社と主催、4月1日～4月20日)、「第27回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月17日～7月27日)、「北京原人展」(大阪市教育委員会・日本中国文化交流協会・読売新聞大阪本社・読売テレビと主催、9月6日～10月12日)、「中国美術展シリーズⅤ 明清の美術」(朝日新聞社と主催、10月21日～11月23日)	〈特陳〉「カナダ風景画展」(カナダ大使館と主催、1月5日～1月15日)
1981	昭和56	45	12月、U.A.カザール氏の日本近世漆工芸と装身具コレクションが都合5度(にわたり)遺族より譲渡される。(1984年度にカンパで)	「第12回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月21日～3月15日)、「近世の大坂画壇展」(日本経済新聞社と主催、4月7日～5月10日)、「受贈記念 田万コレクション名品展」(日本経済新聞社と主催、4月7日～5月10日)、「中華人民共和国 南京博物院展—長江流域五千年の歴史と文化—」(日本中国文化交流協会・中日新聞社との主催、5月19日～7月5日)、「第28回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月18日～7月29日)、「附」『エトワス美術展』(於 尼崎市長合文化センター、2月7日～3月31日)	〈特陳〉「山口コレクション」(8月15日～10月11日)

1982	昭和57	46	11月、大阪市立東洋陶磁美術館開館	「第13回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月20日～3月22日)、「久保惣コレクション 東洋古美術展」(日本経済新聞社と主催、6月5日～7月4日)、「第29回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月17日～7月28日)、「イクリプ・ミラゾサ・コンパニオン」(大阪市・ミナト市主催、10月5日～10月17日)、「日中国交正常化10周年記念 北京・故宮博物院展」(朝日新聞社・西武美術館と主催、10月23日～11月28日)	〈特陳〉「カザールコレクション根付」(4月10日～5月23日) 〈特陳〉「錦井克之の下絵」(12月4日～12月19日)
1983	昭和58	47	11月、山本發次郎氏の日本近世・近代美術及びイェト・東南アジア染織のコレクションが大阪市に寄贈される。	「第14回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月19日～3月21日)、「近代中国版画展」(4月29日～5月29日)、「第30回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月16日～7月27日)、「ルーニン・グランド市姉妹都市提携50周年記念 エルミタージュ美術館展」(大阪市・大阪市教育委員会・国立西洋美術館・毎日新聞社主催、10月29日～12月11日)	〈特陳〉「カザールコレクション文具」(6月4日～7月3日) 〈特陳〉「館蔵中国美術」(8月9日～10月16日)
1984	昭和59	48		「第15回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月18日～3月18日)、「シチリアの古代ギリシア展」(東京富士美術館・毎日新聞社と主催、6月2日～6月24日)、「第31回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月14日～7月26日)、「中国仏教彫像展ー日本仏像の源流を求めてー」(朝日新聞社と主催、10月6日～11月11日)	〈特陳〉「受贈記念 山本發次郎コレクション展」(大阪市と主催、4月28日～5月20日) 〈特陳〉「中国の美術ー戦国から漢代ー」(8月7日～9月23日) 〈特陳〉「カザールコレクション装身具」(11月20日～12月23日)
1985	昭和60	49		「第16回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月17日～3月17日)、「米國・心遠館コレクション初公開展 海を渡った日本の美ー江戸時代の絵画ー」(日本経済新聞社・テレビ大阪と主催、4月13日～5月26日)、「一万年の歴史をたどるートルコ文明展」(朝日中近東文化センター・朝日新聞社・NHKと主催、6月19日～7月21日)、「第32回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、8月2日～8月16日)、「シルクロードの遺宝ー古代・中世の東西文化交流ー」(日本経済新聞社・テレビ大阪と主催、10月8日～11月24日)	〈特陳〉「カザールコレクション調度」(8月24日～9月25日)
1986	昭和61	50		「第17回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月16日～3月16日)、「中国明清書法名宝展ー上海博物館所蔵ー」(社)日本書芸院・大阪府日中友好協会・上海博物館・中国人民対外友好協会上海市分会と主催、3月25日～4月13日)、「開館50周年記念 館蔵名品選」(4月29日～8月31日)、「第33回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月18日～7月31日)、「フネネ」(日本経済新聞社と主催、9月9日～10月12日)、「ピーター・フェルナント・ドラッカー・コレクション 水墨画名作展」(日本経済新聞社・テレビ大阪と主催、10月18日～11月23日)	
1987	昭和62	51	天王寺公園で天王寺博覧会が開催され公園が整備、有料化される。 7月、南館2階で行われていた美術団体展を新設のあべのベルタ会場(阿倍野開発ビル3階多目的ホール)に移す。それに伴い、南館2階が常設展覧会場となる。 10月、田万夫妻の息子・侃氏より、コレクションの追加寄贈を受ける。	「第18回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月17日～3月15日)、「大阪市立美術館付設美術研究所 40周年記念展」(1月10日～2月8日)、「花山法皇中興1000年記念 西国三十三所観音霊場の美術展」(西国三十三所礼所会・毎日新聞社と主催、4月28日～6月7日)、「中国明清の絵本」(6月16日～7月19日)、「金龍・金鳥と動物国宝展」(財)大阪21世紀協会と主催、8月1日～11月8日)、「日タイ修好100周年記念 タイ美術展」(国際交流基金・NHK・朝日新聞社と主催、11月20日～12月20日)	〈特陳〉「漆工芸の美ー堀山みから江戸時代ー」(6月16日～7月19日)

1988	昭和63	52		「第19回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月20日～3月13日)、「日本・中国・朝鮮に見る16世紀の美術—壹町・桃山・明・李朝時代の名品から—」(4月26日～5月29日)、「第34全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月15日～7月27日)、「創立100周年記念 東京藝術大学 所蔵名作展—日本近代美術の流れ—」(東京藝術大学・朝日新聞社と主催、8月6日～8月28日)、「麻布美術館所蔵 肉筆浮世絵名品展」(9月6日～10月9日)、「オスベン朝の栄光 トルコ・トラカフ宮殿秘宝展」((財)中近東文化センター、NHK、朝日新聞社と主催、10月22日～12月11日)	
1989	昭和64 ／平成元	53		「第20回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月18日～3月19日)「平安・鎌倉の美術—12世紀の信仰と雅—」(朝日新聞社と主催、4月25日～5月28日)、「第35回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月14日～7月30日)、「大阪市制100周年・近代美術館構想記念 佐伯祐三とエコール・ド・ソンの仲間たち展」(8月12日～9月24日)	〈特展〉「美術館の名品展」(10月7日～11月26日)
1990	平成2	54	9月、地下展覧会室の建設が始まる。 11月、大阪市立近代美術館建設準備室が設置される。	「第21回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月17日～3月18日)、「花・花・花—サント—美術館名品展—」(サント—美術館と主催、3月27日～5月6日)、「『光悦の書』慶長・元和・寛永の名筆」((財)日本書芸院と主催、5月19日～6月24日)「第36回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月13日～7月29日)、「ロッキングエラ—浮世絵コレクション展— 甞える美・花と鳥と」(毎日新聞社・ロードア・イラン・バス・スカル・オブ・デザイン美術館と主催、9月1日～9月30日)、「附」(大阪市立美術館所蔵 中国の美術—彫刻と絵画)「於 茨城県立歴史館、茨城県立歴史館と主催、9月18日～10月21日)	
1991	平成3	55		「第22回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月16日～3月17日)、「2300年の歴史と美術—イタリヤ貨幣・メダール展」((財)造幣局泉友会・日本経済新聞社・イタリヤ造幣局・イタリヤ文化環境庁と主催、4月23日～5月26日)、「第37回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月12日～7月28日)、「いのち・生きる・愛—町居希展」((財)大阪21世紀協会・毎日新聞社と主催、8月27日～9月23日)、「金の輝きと精緻の技—中国戦国時代の美術」(10月8日～11月10日)	〈特展〉「田川寛一とその周辺展」(11月19日～12月15日)
1992	平成4	56	9月、地下展覧会室を新設し、南館1階とあべのペルダの美術団体共展覧会場を移転する。南館1・2階は常設展示会場となる。	「第23回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月22日～3月22日)、「天理秘蔵名品展」(読売テレビ・読売新聞大阪本社・天理大学附属天理図書館・天理教道友社と主催、4月7日～5月10日)、「清朝工芸の美—秀麗な清朝陶磁を中心に—」(朝日新聞社と主催、5月23日～6月28日)、「第38回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月10日～7月26日)、「サントラビスコ美術館名品展—レンブラントからセザンヌまで—」(サントラビスコ美術館・読売新聞大阪本社・読売テレビと主催、8月8日～9月13日)、「開創1400年記念—四天王寺の宝物と聖徳太子信仰展」(四天王寺と主催、10月6日～11月8日)	
1993	平成5	57		「第24回 日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月26日～3月25日)、「中国王朝の誕生」(中国社会科学院考古研究所・読売新聞大阪本社・読売テレビと主催、4月20日～5月30日)、「第39回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月9日～7月25日)、「四天王寺創建1400年記念—四天王寺の舞楽装束展」(四天王寺と主催、10月20日～11月23日)	〈特展〉「没後40年記念—近代大阪の洋画家 赤松麟作展」(9月7日～10月11日)

1994	平成6	58		「第25回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月25日～3月27日)、「大ナボレオン展」(東京富士美術館・毎日新聞社と主催、4月9日～5月29日)、「大阪市・上海市友好都市提携20周年記念 大阪市立美術館・上海博物館所蔵 中国書画名品展 筆と墨のメッセーヅ展」(上海博物館・名品展実行委員会・(社)日本書芸院・NHK大阪放送局・日本経済新聞社・(財)大阪21世紀協会・大阪日中懇話会と主催、5月24日～6月26日)、「第40回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月15日～7月31日)、「やまと絵の奇跡ー中・近世の美の世界」(読売新聞大阪本社・読売テレビと主催、10月8日～11月6日)、「附」大阪市立美術館蔵 中国書画名品展「(於 上海博物館、4月18日～5月8日)」	
1995	平成7	59	9月、小野順造氏の中国石造彫刻コレクションを譲渡される。(2002年度まで)	「第26回日展」(大阪市・大阪市教育委員会主催、2月24日～3月26日)、「国宝葛井寺千手観音」(4月11日～5月7日)、「第41回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月14日～8月17日)、「中国の石仏ー荘嚴なる祈りー」(10月10日～11月26日)	(特集)「大阪を愛した孤高の写生派ー庭山耕園・花鳥画の世界」(8月25日～9月17日)
1996	平成8	60	10月、開館60周年記念国際フォーラム「美術館の可能性を求めてー市民との共生ー」を開催。	「第27回日展」(2月23日～3月24日)、「故宫博物院70周年記念 北京・故宫博物院名宝展」(読売新聞大阪本社・読売テレビ・北京・故宫博物院名宝展実行委員会・故宫博物院と主催、4月6日～5月6日)、「京都・永観堂神林寺の名宝展」(永観堂神林寺・読売新聞大阪本社・読売テレビ・美術館連絡協議会と主催、4月16日～5月19日)、「第42回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月17日～8月18日)、「開館60周年記念 十二支の動物たち 子どもと大人の美術鑑賞」(9月3日～9月29日)、「開館60周年記念 大阪市立美術館の名品」(10月15日～11月17日)、「大阪市立美術館付設美術研究所 開所50周年記念美術研究所の50年」(大阪市と主催、11月26日～12月23日)	(特集)「太山寺の法華経展ー装飾経の美をあつめてー」(4月8日～5月11日)
1997	平成9	61	南館2階陳列室の展示環境改善工事を行う。(1998年度まで)	「コーン・コレクション展ーマチスと近代の巨匠たちー」(読売新聞大阪本社・読売テレビと主催、1月8日～2月11日)、「第28回日展」(2月21日～3月23日)、「第43回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月1日～7月27日)、「文入のおこがれ、清風のこころ 煎茶・美とそのかたち」(日本経済新聞社と主催、9月23日～11月3日)、「神々の悠久の遺産 古代出雲文化展」(島根県・島根県教育委員会・朝日新聞社・古代出雲文化展実行委員会と主催、11月18日～12月21日)、「附」Joy Under the Blossoms: Lacquer Picnic Sets from Osaka Municipal Museum「(於 サントリーナンズコ・マジック美術館、4月16日～5月18日)」	(特集)「大阪を愛した孤高の写生派ー庭山耕園・花鳥画の世界」(8月25日～9月17日)
1998	平成10	62		「アソコールワットとクメール美術の1000年展」(朝日新聞社・NHK大阪放送局・NHKきんきメディアプラザ、1月15日～3月22日)、「生誕100年記念 佐伯祐三展」(大阪市近代美術館建設準備室・産経新聞社・関西テレビ放送と主催、4月7日～5月17日)、「第44回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、6月30日～7月20日)、「第29回日展」(9月5日～10月4日)、「近世アソコールワットの魅惑に迫る 和の意匠ー新たなモチーフー」(朝日新聞社と主催、10月20日～11月23日)	(特集)「なにわつに咲くやこの花 絵画展」(8月11日～8月23日) (特集)「古染付と呉須赤絵」(10月13日～12月20日)

1999	平成11	63	7月、南館1階陳列室の展示環境改善工 を行う。(10月まで)	「第30回日展」(2月26日～3月28日)、「よみがえる 漢王朝ー2000年の時をこえてー」(中国社会科学院考古研究所・奈良国立文化財研究所・読売新聞大阪本社・読売テレビと主催、4月13日～6月6日)、「第45回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月2日～7月25日)、「役行者神変大菩薩1300年遠忌記念 役行者と修験道の世界」(龍興寺・聖護院・金峯山寺・東武美術館・毎日新聞社と主催、11月2日～12月5日)	(特集)「仏教美術、様々な表現」(1月5日～2月11日) (特集)「漆と黄金ー技と遊びの小世界ーカザールコレクション」江戸末～明治時代の根付・蒔絵装身具・調度」(4月13日～6月6日)
2000	平成12	64	「第31回日展」(2月25日～3月20日)、「日蘭交流400周年記念フェルメールとその時代」(毎日新聞社・毎日放送と主催、4月4日～7月2日)、「第46回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月19日～8月6日)、「オリンピック・ボスアート展ー20世紀の美と感動の軌跡」(オリンピック・ボスアート展実行委員会・(財)日本オリンピック委員会・(財)大阪オリンピック招致委員会・(財)大阪21世紀協会・(財)大阪都市協会と主催、8月19日～9月24日)、「文化財保護法50年記念 黒川古文化研究所名品展ー大阪商人黒川家三代の美術コレクション」(財)黒川古文化研究所・日本経済新聞社と主催、9月15日～10月15日)、「人のすがた 人のことばー肖像画賞ー」(10月31日～12月3日)	「第31回日展」(2月25日～3月20日)、「日蘭交流400周年記念フェルメールとその時代」(毎日新聞社・毎日放送と主催、4月4日～7月2日)、「第46回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月19日～8月6日)、「オリンピック・ボスアート展ー20世紀の美と感動の軌跡」(オリンピック・ボスアート展実行委員会・(財)日本オリンピック委員会・(財)大阪オリンピック招致委員会・(財)大阪21世紀協会・(財)大阪都市協会と主催、8月19日～9月24日)、「文化財保護法50年記念 黒川古文化研究所名品展ー大阪商人黒川家三代の美術コレクション」(財)黒川古文化研究所・日本経済新聞社と主催、9月15日～10月15日)、「人のすがた 人のことばー肖像画賞ー」(10月31日～12月3日)	(特集)「中国の漆工」(8月26日～9月24日) (特集)「漆と黄金ー技と遊びの小世界ーカザールコレクション」江戸末～明治時代の根付・蒔絵装身具・調度」(4月13日～6月6日)
2001	平成13	65	「第32回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月24日～3月25日)、「華村ーその二つの旅ー」(朝日放送と主催、4月10日～5月20日)、「第47回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月13日～7月29日)、「菅原道真没後1100年記念 天神さまの美術」(NHK大阪放送局・NHKきんきメディアアトラントと主催、11月2日～12月9日)	「第32回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月24日～3月25日)、「華村ーその二つの旅ー」(朝日放送と主催、4月10日～5月20日)、「第47回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月13日～7月29日)、「菅原道真没後1100年記念 天神さまの美術」(NHK大阪放送局・NHKきんきメディアアトラントと主催、11月2日～12月9日)	(特展)「いろどりの物語ー東洋の美術ー」(6月2日～6月24日) (特集)「輸出漆器の変遷」(8月10日～9月16日) (特集)「明清の絵画」(9月15日～10月14日)
2002	平成14	66	「聖徳太子展」(NHK大阪放送局・NHKきんきメディアアトラントと主催、1月8日～2月11日)、「第33回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月23日～3月24日)、「クラーテ財団日本美術コレクション」(カサカから来た日本)「クラーテ財団・日本経済新聞社と主催、5月28日～6月30日)、「第48回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月18日～8月4日)、「日中国交正常化30周年記念 白と黒の競演ー中国・徽州窯系陶器の世界ー」(日本経済新聞社・河北省文物局と主催、10月1日～12月8日)	「聖徳太子展」(NHK大阪放送局・NHKきんきメディアアトラントと主催、1月8日～2月11日)、「第33回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月23日～3月24日)、「クラーテ財団日本美術コレクション」(カサカから来た日本)「クラーテ財団・日本経済新聞社と主催、5月28日～6月30日)、「第48回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月18日～8月4日)、「日中国交正常化30周年記念 白と黒の競演ー中国・徽州窯系陶器の世界ー」(日本経済新聞社・河北省文物局と主催、10月1日～12月8日)	(特集)「中国の仏像」(4月5日～6月23日) (特集)「珠派」(8月27日～9月29日)
2003	平成15	67	「クラーベ展」(毎日放送・毎日新聞社と主催、1月10日～2月16日)、「第34回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月23日～3月23日)、「読売書法展20周年記念 海を渡った中国の書ーエリョット・コレクションと宋元の名蹟」(読売新聞社・(社)日本書芸院・読売書法会・NHK大阪放送局と主催、(企画協力)フジテレビ大学附属美術館、4月8日～6月1日)、「第49回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月17日～8月3日)、「円山応挙(写生画)創造への挑戦」(毎日新聞社・NHK大阪放送局・NHKきんきメディアアトラントと主催、9月13日～10月26日)、「色鍋島の美」(10月28日～12月14日)	「クラーベ展」(毎日放送・毎日新聞社と主催、1月10日～2月16日)、「第34回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月23日～3月23日)、「読売書法展20周年記念 海を渡った中国の書ーエリョット・コレクションと宋元の名蹟」(読売新聞社・(社)日本書芸院・読売書法会・NHK大阪放送局と主催、(企画協力)フジテレビ大学附属美術館、4月8日～6月1日)、「第49回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月17日～8月3日)、「円山応挙(写生画)創造への挑戦」(毎日新聞社・NHK大阪放送局・NHKきんきメディアアトラントと主催、9月13日～10月26日)、「色鍋島の美」(10月28日～12月14日)	(特集)「館藏品コレクション」(7月17日～9月11日) (特集)「関西珐瑯展覧会とその時代」(9月23日～11月3日)

2004	平成16	68		「ヨーロッパの宝飾400年―煌きのダイヤモンド」(朝日新聞社と主催、1月9日～2月27日)、「第35回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月28日～3月28日)、「二百年遠忌記念 心の書 慈雲尊者」(読売新聞大阪本社と主催、4月20日～5月30日)、「第50回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月9日～7月25日)、「紀伊山地の霊場と参詣道 世界遺産登録記念 祈りの道―吉野・熊野・高野の名宝―」(三重県・奈良県・和歌山県・世界遺産登録推進三県協議会・毎日新聞社・NHK大阪放送局・NHKきんきメディアクラブと主催、修験道三本山会議(醍醐寺・聖護院・金峯山寺)・熊野三山協議会・金剛峯寺・(財)高野山文化財保存会・大峯山寺と共催、8月10日～9月20日)、「2005年日本国際博覧会開催記念 世紀の祭典 万国博覧会的美術―パシ・ウーレン・シカゴ万博に見る東西の名品」(NHK大阪放送局・NHKきんきメディアクラブ・日本経済新聞社・東京国立博物館・名古屋博物館と主催、10月5日～11月28日)、「学社連携事業 美術館が動物園になったよ！」(10月5日～11月28日)	
2005	平成17	69	「人によさしい街づくり」事業にて、スロープ・乗用エレベーターなどの整備を行う。	「第36回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月26日～3月21日)、「大唐王朝 女性の美」(産経新聞社・中国文物交流中心準備室、4月9日～5月22日)、「興福寺国宝展―鎌倉復興期のみほとけ」(法相宗大本山興福寺・朝日新聞社・朝日放送と主催、6月7日～7月10日)、「第51回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月30日～8月17日)、「姉妹都市提携25周年記念 ミラノ展」(読売新聞大阪本社・NHK大阪放送局と主催、9月6日～10月16日)、「南仏モンペジエ フラージュ美術館蔵 魅惑の17―19世紀フランス絵画展」(読売新聞大阪本社・美術館連絡協議会・読売テレビと主催、11月15日～12月25日)	〈特集〉「小野順造コレクション中国彫刻」(6月7日～7月10日)
2006	平成18	70	2月、森新治郎氏より詩絵盆コレクションが寄贈される。	「第37回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月25日～3月26日)、「開館70周年記念 書の国宝 墨蹟展」(読売新聞社・(社)日本書芸院・NHK大阪放送局、(特別協力)(財)五島美術館、4月18日～5月28日)、「第52回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、6月13日～6月25日)、「開館70周年記念 プラザ美術館展」(読売新聞大阪本社・読売テレビ・国立プラザ美術館・美術館連絡協議会と主催、7月15日～10月15日)、「開館70周年記念 大阪人が築いた美の殿堂―館蔵・寄託の名品から」(朝日新聞社・産経新聞社・毎日新聞社・読売新聞大阪本社・NHK大阪放送局・毎日放送・朝日放送・関西テレビ放送・読売テレビ・テレビ大阪と主催、11月3日～12月24日)	〈特集〉「幻の芝川照吉コレクション」(4月18日～6月25日)
2007	平成19	71	美術館をはじめとした教育委員会所管の博物館施設等は、ゆとりとみどり振興局へ移管。	「第38回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月24日～3月25日)、「ギム東洋美術館所蔵浮世絵名品展 ハシを越えた江戸の華―北斎・写楽・歌麿」(フランス国立ギム東洋美術館・NHK大阪放送局・NHKきんきメディアクラブと主催、4月10日～5月27日)、「第53回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月10日～7月25日)、「IAAF世界陸上2007大阪開催記念 イタリアデザイン界のベスト」連(大阪市・ミナ市・大阪・ミナ市姉妹都市委員会・ラトリエンターレ・デザイン・財団と主催、8月14日～9月2日)、「上海―近代の美術」(読売新聞大阪本社・美術館連絡協議会と主催、9月4日～10月14日)、「BIONBO／屏風 日本の美」(日本経済新聞社・テレビ大阪と主催、10月30日～12月16日)	〈特集〉「中国の彫刻―山口コレクションを中心」(8月7日～10月14日、10月30日～12月16日)
2008	平成20	72		「第39回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月23日～3月23日)、「聖徳太子ゆかりの名宝―河内三太子 叡福寺・野中寺・大聖勝軍寺」(NHK大阪放送局・NHKフナネット近畿・読売新聞大阪本社と主催、叡福寺・野中寺・大聖勝軍寺と共催、4月26日～6月8日)、「第54回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月8日～7月21日)、「没後80年記念 佐伯祐三展」(大阪市立近代美術館建設準備室・産経新聞社・関西テレビ放送と主催、9月9日～10月19日)、「晋証大師扁朝1150年記念 国宝 三井寺展」(NHK大阪放送局・NHKフナネット近畿・毎日新聞社と主催、三井寺と共催、11月1日～12月14日)	〈特集〉「芝川照吉コレクション」(6月17日～6月29日、7月8日～7月21日、8月2日～9月7日) 〈特集〉「大阪市立近代美術館コレクション、その誕生と成長―モダリティー、ローランサントから今井俊満、ハスエマまで―」(大阪市立美術館、大阪市近代美術館準備室、産経新聞社と主催、9月9日～10月19日)

2009	平成21	73		「第40回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月21日～3月22日)、「小袖 江戸のオートクチュール」(松坂屋京都染織参考館・日本経済新聞社・テレビ大阪と主催、4月14日～5月31日)、「第55回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月7日～7月20日)、「慶應義塾創立150年記念 未来を開く 福澤諭吉展」(慶應義塾・産経新聞社と主催、8月4日～9月6日)、「道教の美術 TAOSM ART」(読売新聞社・美術館連絡協議会・NHK大阪放送局と主催、9月15日～10月25日)、生誕120年記念「小野竹喬展」(毎日新聞社・NHK大阪放送局・NHKフレッツ近畿と主催、11月3日～12月20日)	(特集)「水都大阪2009開催記念「水の風景」」(9月15日～10月25日)
2010	平成22	74	財団法人大阪市博物館協会の指定管理となる(2012年度より公益財団法人)。	「第41回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月20日～3月28日)、「鴻池コレクション」局絵名品展」(大田記念美術館・日本経済新聞社と主催、(特別協力)鴻池合資会社、4月13日～5月30日)、「第56回全関西美術展」(読売新聞大阪本社と主催、7月6日～7月19日)、「住吉さんー住吉大社1800年の歴史と美術」(産経新聞社・NHK大阪放送局・NHKフレッツ近畿と主催、住吉大社と共催、10月9日～11月28日)	(特集)「草花のいどろ」(6月11日～6月20日、7月6日～7月19日)
2011	平成23	75	7月、辻本勇氏蒐集による富本憲吉作品のコレクションを泰子夫人より寄贈される。同月、田原一繁・元子夫妻蒐集の錦島焼コレクションを元子夫人より寄贈される。11月、大阪市立博物館の移転と考古資料センターの構想を統合し、大阪歴史博物館が開館。	「第42回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月19日～3月21日)、「没後150年 歌川国芳展」(読売新聞社・読売テレビと主催、4月12日～6月5日)、「第57回全関西美術展」(読売新聞社と主催、7月5日～7月18日)、「生誕120周年記念 岸田劉生展」(読売新聞社・読売テレビと主催、9月17日～11月23日)	(特集)「受贈記念 辻本勇コレクション 陶芸家・富本憲吉の世界」(1月5日～2月13日) (特集)「受贈記念 田原コレクション 色錦島・藍錦島」(8月2日～9月4日) (特陳)「韓裕・藤嗣・根来 漆をたのむ」(8月2日～9月4日)
2012	平成24	76		「第43回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月18日～3月18日)、「草原の王朝 契丹」(産経新聞社・毎日放送と主催、4月10日～6月10日)、「第58回全関西美術展」(読売新聞社と主催、7月3日～7月16日)、「沖繩復帰40周年記念 紀型 BINGATA 琉球王朝のいどろ」(毎日新聞社と主催、9月11日～10月21日)、「北斎ー風景・美人・奇想ー」(読売新聞社・読売テレビと主催、10月30日～12月9日)、「[附]「大阪市立美術館蔵宋・元・明中国書画珍品展」(於 香港芸術館、11月30日～2015年1月9日)	(特陳)「中国工芸5000年ー金属器・陶磁器の多彩な表現」(1月7日～2月5日) (特陳)「光琳資料をひもとく」(1月7日～2月5日) (特陳)「中国拓本ー師古斎コレクション」(1月7日～2月5日) (特陳)「橋本コレクション中国書画」(7月28日～9月2日) (特集)「雲の上を行くー仏教美術 I・II」(1/9月17日～10月16日、II/10月20日～11月23日) (特集)「中国書画 Iー館蔵・寄託の優品」(9月17日～10月16日) (特集)「中国書画 IIー阿部コレクション」(10月20日～11月23日)
2013	平成25	77		「第44回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月23日～3月17日)、「ボストン美術館 日本美術の至宝」(ボストン美術館・NHK大阪放送局・NHKフレッツ近畿・朝日新聞社と主催、4月2日～6月16日)、「第59回全関西美術展」(読売新聞社と主催、7月9日～7月21日)、「北魏 石造仏教彫刻の展開」(日本経済新聞社と主催、9月7日～10月20日)、「再発見！大阪の至宝ーコレクションーたちが愛したたからものー」((公財)大阪市博物館協会・NHK大阪放送局・NHKフレッツ近畿・読売新聞社と主催、10月29日～12月8日)	(特陳)「酒と食のうつわー杯のなかの小さな世界ー」(1月10日～2月11日) (特集)「たつぷり見たい屏風絵」(9月11日～10月14日) (特集)「たつぷり見たい屏風絵 II」(8月6日～9月1日) (特集)「根付と装身具」(9月7日～10月14日)

2014 平成26	78		「第45回日展」(読売新聞大阪本社と主催、2月22日～3月23日)、「山の神仏ー吉野・熊野・高野」(毎日新聞社・毎日放送・紀伊山地三霊場会議と主催、4月8日～6月1日)、「第60回全関西美術展」(読売新聞社と主催、6月24日～7月6日)、「こども展ー名画にみるこどもと画家の絆」(読売テレビ・読売新聞社と主催、7月19日～10月13日)、「うた・ものがたりのデザインー日本工芸にみる優雅の伝統」(毎日新聞社と主催、10月28日～12月7日)	〈特集〉「古代イタリヤの陶器とコラト染織・彫刻」(1月5日～2月11日) 〈特集〉「とおくでちかひー仏教美術ー」(1月10日～2月11日) 〈特集〉「近世絵画1750ー1850」(10月28日～12月7日)
2015 平成27	79	8月、美術館が登録有形文化財(建造物)となる。	「改組 新 第1回日展」((公社)日展と主催、2月21日～3月22日)、「肉筆浮世絵ー美の競艶」(日本経済新聞社・テレビ大阪・BSジャパンと主催、4月14日～6月21日)、「第61回全関西美術展」(読売新聞社と主催、7月14日～7月26日)、「伝説の洋画家たち 二科100年展」((公社)二科会・産経新聞社・関西テレビ放送・フジテレビジョンと主催、9月12日～11月1日)	〈特集〉「平成26年新指定重要文化財ー狩野派の山水・花鳥図屏風ー」(1月10日～2月8日) 〈特展〉「田万コレクション I 中・近世絵画」(1月10日～2月8日)
2016 平成28	80	開館80周年	「改組 新 第2回日展」((公社)日展と主催、2月20日～3月21日)、「王羲之から空海へー一日中の名筆 漢字どかなの競演」(読売新聞社・公社)日本書芸院と主催、4月12日～5月22日)、「デトロイト美術館展 大西洋を渡ったヨーロッパの名画たち」(関西テレビ放送・産経新聞社と主催、7月9日～9月25日)、「第62回全関西美術展」(読売新聞社と主催、10月14日～10月26日)	〈特展〉「開館80周年記念展 壺中之展ー美術館的小字告ー」(朝日新聞社・産経新聞社・日本経済新聞社・毎日新聞社・読売新聞社と主催、11月8日～12月4日)
2017 平成29	81		「改組 新 第3回日展」((公社)日展と主催、2月18日～3月20日)、「木×仏像ー飛鳥仏から円空へ 日本の木彫仏1000年」(産経新聞社と主催、4月8日～6月4日)、「第63回全関西美術展」(読売新聞社と主催、7月7日～7月19日)、「デイズニー・グレート展 vのちを吹き込む魔法」(読売テレビ・読売新聞社と主催、10月14日～1月21日)	〈特展〉「土佐光起生誕400年 近世やまと絵の開花」(9月2日～10月1日)

【凡例】

- ・「特別展」欄において、展覧会名に続く()内には主催者と開催期間を記した。当館単独主催の場合は開催期間のみを記した。
- ・館外において当館の所蔵品を特集した展覧会は「附」として記した。
- ・本年表は、主に以下の資料に拠って記した。『大阪市立美術館二十年史』(大阪市立美術館50年史)(大阪市立美術館編、1986年)、『美をつくし』(美術館定期刊行物、大阪市立美術館編、1958年～現在)